

家事分担と比較優位

いま同居している二人（AさんとBさん）が、掃除と料理という二つの家事をするケースを考えます。まず自分ことは自分でやるという場合に、それぞれの家事労働にどのくらいの時間がかかるかをまとめたものが表1です。

	Aさん	Bさん
掃除	40分	30分
料理	50分	20分
合計時間	90分	50分

表1

この表を見ると、掃除でも料理でも、AさんよりもBさんの方が短時間で家事をこなせるという意味で、Bさんの方が高い能力を持っています。つまりBさんは掃除も料理でも絶対優位となっています。それではBさんはAさんと協力することで、得できる余地はないのでしょうか？

注目すべきなのは、Bさんは掃除についてはAさんの3/4の時間でこなせますが、料理は2/5というより短時間でこなすことができるという点です。また反対に、すべての面で劣るAさんは、どちらがマシかといえば、2.5倍の時間が掛かる料理よりも4/3倍の時間で済む掃除の方がまだマシです。よってAさんは掃除に比較優位があり、またBさんは掃除に比較優位があることになります。

このとき、二人分の掃除をAさんが、また二人分の料理をBさんが作ることを考えてみましょう。そして二人分やるときに掛かる時間は自分だけの場合のちょうど二倍だとすると、家事労働の時間は次の表2のようになります。

	Aさん	Bさん
掃除	$40 \times 2 = 80$ 分	0分
料理	0分	$20 \times 2 = 40$ 分
合計時間	80分	40分

表2

こうして、比較優位がある方の家事をまとめて担当すると、二人とも家事労働時間を減らすことができました。